



平成 27 年度 IYEO チャレンジ・ファンド助成事業

CSEAYP

(The **C**amp for **S**outh **E**ast **A**sian and **J**apanese **Y**outh **P**rogram)

～2泊3日の国際交流キャンプ～

CSEAYP実行委員会



【活動内容】

2015年9月19日から21日にかけて、日本青年12名、ASEAN青年7名、*JPY32名の計51名で、足柄のキャンプ場にて異文化理解促進を目的とした国際交流キャンプを実施した。

初日は開会式にて「東南アジア青年の船」事業の紹介から事業の実施背景の説明を行い、本キャンプの全体の目的を明確にした。またチームビルディングを主軸としたプログラム構成でお互いを知ることから始まり、ASEANへの興味関心を抱いてもらうようコンテンツを工夫した。夜はチームごとに飯盒炊飯を行い、お互いへの理解を深めた。

二日目は、異文化理解をテーマとしたプログラム構成で、午前中のディスカッションではロールプレイで「自分ならどうするか」という命題を実際にJPYが体験した事例で、参加者に考えて意見交換してもらった。また食文化について異文化理解を深めるための議論も行った。午後のプログラムでは、キャンプ場の大自然を生かしチームごとのウォークラリーを行い、各スポットにて衣食住、ダンス等様々なASEAN文化体験してもらい、実際に身を持って感じたことを振り返り議論してもらった。夕食はJPYがASEAN料理を振舞い、夕食後「キャンドルナイト」と称し、お互いの人生曲線と価値尺度についてオープンに話し合った。その後希望者でスターゲイジングに出かけ自然を堪能した。



日本青年とASEAN海外青年とのディスカッション

三日目は最終日ということで、振り返りのセッションをメインとしたプログラム構成で、キャンプを通じて学んだこと驚いたこと得たものを振り返ってもらい、劇などを交え楽しく共有をした後、閉会式で修了証の授与を行った。

大きなトラブルやけがもなく無事に事業を成功のうちに終わらせることができた。参加者からの事後アンケートの満足度は1から5の5段階で回答者全員が5であり、何人かの日本人参加者は次の国際交流事業へ動き出した話を聞くにつけ、本キャンプの意図は伝わり、成果はあったと誇りに感じる。

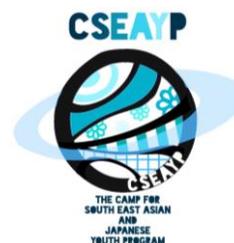
*JPY：「東南アジア青年の船」事業日本参加者

【プログラムのコンセプト】

第41回「東南アジア青年の船」事業に参加した日本参加青年（JPY）が、事後活動としてCSEAYPを企画し運営を行った。事業で得た学び生かし、キャンプを通して日本の青年とASEANの海外青年との交流の機会を作り、異文化理解の促進を図ることを目的としている。プログラムでは船内で実際に行った活動を基に、英語によるディスカッションやチーム対抗の運動会を実施。キャンプ場ならではのウォークラリーやカレー作りなど工夫を凝らしたコンテンツを盛り込んだ。実行委員全員でFace to Faceのコミュニケーションによる、異文化理解促進を目指した。

【主なプログラム（抜粋）】

9月19日（土）	9月20日（日）	9月21日（月）
<ul style="list-style-type: none"> ・開会式 ・アイスブレイク ・運動会 ・カレー作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・モーニング エクササイズ ・ディスカッション ・ウォークラリー ・キャンドルナイト 	<ul style="list-style-type: none"> ・モーニング エクササイズ ・振り返り会 ・閉会式



このロゴは、グローバル化した世界で求められる「多様性」、夏のキャンプをイメージした「清涼感」を基に、日本参加青年（JPY）がデザインしたものです。